

◆『戦史秘話』 第一話 ◆

百年目の慰霊—英国ポートランドに眠る日本海軍兵—

原田 2 等兵曹の葬儀神父と英国海軍兵による葬儀の様子



『第二特務艦隊記念写真帖』(防衛研究所戦史研究センター所蔵)より

始まりは一通のメールから

「英国ポートランドの海軍墓地に眠る日本海軍兵の親族に連絡が取れないか」、2018年9月、ロンドンにある日本国大使館に、英国の大学生 Jed Hugh Grant 氏から問い合わせが舞い込んだ。墓標には Petty Officer Harada という名前と 1919(大正8)年2月15日に亡くなっていることが刻まれてあり、2019年は没後百年にあたるため花輪を手向けたいが、親族に連絡がとれないかというものであった。この質問が、同大使館の防衛駐在官である野間俊英1等海佐から防衛研究所戦史研究センターに勤務する私に届いたのが、「百年目の慰霊」の始まりであった。

Petty Officer Harada を探して

この照会を受けたとき「第二特務艦隊」の名前が即座に私の脳裏を過ぎった。第一次世界大戦時、日本海軍は日英同盟のもと、「第二特務艦隊」を地中海に派遣し、その後英国に寄港していたのである。戦史研究センターにある史料庫の所蔵品を調査したところ、第二特務艦隊の編纂による『遠征記』と『第二特務艦隊記念写真帖』の存在が判明した。その中には死没者名簿と顔写真が残されており、「海軍2等兵曹 原田浅吉」の名前とポートランドにおける原田2等兵曹の葬儀の写真もあった。

原田 2 等兵曹が、遠く英国の地で亡くなったことは確認できた。問題は、親族をどう探るかであった。私は、当時ご遺族に対し支払われた見舞い金関連の史料を調べることにした。その結果、「恤兵金配付(第2特務艦隊)」(防衛研究所戦史研究センター所蔵)(アジア歴史資料センター(<https://www.jacar.go.jp/>))レファレンスコード「C10128216800」でも公開)により、原田 2 等兵曹は既婚者であり、奥様が長崎市の野母町に住んでいたことが判明した。

ただ、東京の市ヶ谷にある防衛研究所における調査はここまでだった。そこから先は、現地長崎における調査が必要だが、つてもなく、途方に暮れあきらめかけていたところ、あるとき海自 OB を通じて、自衛隊長崎地方協力本部の副本部長玉川裕一事務官を紹介いただいた。長崎市に土地勘のある玉川事務官の熱意と行動力により、原田 2 等兵曹の孫にあたる原田脩二氏(85 歳)が長崎市に在住されていることが判明し、連絡をとることができたのである。

日英両国での心温まる慰霊行事

野間 1 佐と検討した結果、原田 2 等兵曹の没後百年の命日にあたる 2019(平成 31)年 2 月 15 日にあわせて、両国で慰霊行事を行うことにした。孫の原田氏は高齢であり、英国まで足を延ばすことができないためである。

日本では、佐世保市にある東山海軍墓地内の第二特務艦隊戦没者之碑に花輪を手向けることとし、英国では、英国海軍関係者も参列し、ポータランドの墓標に Grant 氏と野間 1 海佐が花輪を手向けることとした。その後、互いの慰霊の姿を写真で交換し、原田氏から Grant 氏に対して礼状が送られた。

その状況は現地で報道されるとともに、英国海軍、英国海軍退役軍人協会のホームページで紹介された。また、日本でも「日本海軍『地中海の守護神』忘れぬ」と題して、産経新聞(平成 31 年 2 月 21 日朝刊)にその様子が掲載されている。防衛研究所の史料庫に残された恤兵金受領書に綴られた原田 2 等兵曹の奥様の文字と、関係者の熱い想いが、百年の時を超えて、日英両国による慰霊行事を生んだのであった。

(戦史研究センター戦史研究室 石丸安蔵)



原田 2 等兵曹の墓標に献花する Grant 氏(左)と野間 1 佐(右)。2019 年 2 月 15 日、英国ポータランド海軍墓地にて(写真:産経新聞社 岡部伸氏提供)

コラム◆地中海に派遣された第二特務艦隊とは

第二特務艦隊は1917（大正6）年2月から1919年6月にかけて巡洋艦3隻、駆逐艦12隻、英国海軍からの貸与艦船4隻の延べ19隻が地中海マルタ島を根拠地として行動した。地中海ではドイツ潜水艦が輸送船を攻撃しており、連合軍側の被害は増大していた。日本海軍にとっては初となる潜水艦を相手にした船団の護衛作戦に従事した。1917年5月4日英国船「トランシルバニア」号が敵の攻撃により沈没しかけているところを、駆逐艦「松」と「榊」が救助にあたり、約3,000名の人員を救助した。一方、6月11日駆逐艦「榊」が魚雷攻撃を受け、艦長以下59名が戦死するという惨事が発生した。第二特務艦隊は、英国海軍から対潜戦を教わり、爆雷を現地で装備するなどして休戦協定が結ばれた1918年11月まで活動を続け、その活躍ぶりは「地中海の守護神」と称賛された。休戦後はフランス、スペインを訪問し、英国ポータランドにも寄港していた。駆逐艦「榊」が攻撃を受け、大きな被害を出してから一年後、第二特務艦隊はマルタ島に「大日本帝国第二特務艦隊戦死者之墓」を建立し、慰霊行事を行った。その墓は、現在もマルタ島に遺されている。2017（平成29）年5月27日には、マルタ島を訪問中の安倍晋三総理大臣が、同墓地において慰霊を行っている。

英国における報道（3件）

① 英国内での報道

[Tributes Paid At Grave of WWI Japanese Sailor](#)

[Portland resident found the grave of Petty Officer Asayoshi Harada at the Royal Naval Cemetery.](#)

• <https://www.forces.net/>

<https://www.forces.net/heritage/wwi/tributes-paid-grave-ww1-japanese-sailor/>

② 英国海軍HP

[Japanese Attaché lays wreath commemorating centenary](#)

• <https://www.royalnavy.mod.uk/>

<https://www.royalnavy.mod.uk/news-and-latest-activity/news/2019/february/26/190226-attache-lays-wreath/>

③ 英国海軍退役軍人協会HP

[Petty Officer A. Harada, Imperial Japanese Navy](#)

• <http://rnaportland.org/>

<http://rnaportland.org/2019/02/17/petty-officer-a-harada-imperial-japanese-navy/>